

高校の地域連携

学び輝く若い力



地元の小学生児童と協力して古代米の苗を植える青谷高の生徒ら。6月11日、鳥取市青谷町青谷

魅力発信のアイデア形に

「青谷学」と課題探求

青谷

青谷高（鳥取市青谷町青谷）では、生徒が地元住民の協力を得て、地域の歴史や文化、産業を授業で学び、その魅力を発信する地域

探求学習を展開している。国史跡青谷上寺地遺跡内の水田での古代米の栽培や、地元産の魚を使ったナゲットの開発など内容は多彩。生徒の発想力や社交性を磨く場にもなっている。

求を展開している。今年の2年生は新たに、町づくり・観光をテーマに加え、五つのテーマを選択。鳥取県立博物館の学芸員や地元農家らから、地質やみそづくり、紙すきを学んでいる。

同校では2年時に、自然科学や農業・漁業など四つのテーマに分かれ、地域の魅力を学ぶ「青谷学」を履修。3年時には、青谷学で生まれたアイデアを形にする実践型の課題探

3年生は地元酒造の酒かすで自然酵母を起こしたスコーンの開発や、因州和紙のちぎり絵壁面の制作などに挑戦。10月30日に道の駅西いなば気楽里（同市鹿野町岡木）で開く「おおこうまるしえ」で研究成果を発表する。

担当の徳田京子教諭は「生徒と接する機会が増えたことで、青谷高を応援してくれる地域の人が増えた。生徒たちにとっては、異年齢の人と人間関係を築く貴重な機会で、社会に出る準備になっている」と目を細める。

（佐々木駿）